

序

これは2006年8月5日-8日に東京大学大学院数理科学研究科の大講義室で開かれた第51回代数学シンポジウムの報告集で、全講演者の講演者本人による講演記録が収められている。

代数学シンポジウムも半世紀の歴史が重なり、昨年度からまた新たな開催方式を模索している。今回は群論、整数論、代数幾何、環論という4分野を網羅し、午前中は特に総合講演として、専門外の人でも理解できる講演をお願いした。この試みは代数学分科会の会員に、まだ十分に知られていないかもしれないが、東京という地の利もあって今回は200人を越す参加者があり、盛況であった。ただし、開催方式の評価はしばらく試みを続ける中で定まって行くであろう。

会場は当初東京工業大学を予定していたが、開催日が電気系統の法定点検日と重なることが分かったため急遽東大に変更となった。突然の変更ではあったが、会場責任者の宮岡洋一氏はもとより開催中には斎藤毅氏、桂利行氏をはじめ東大数理の方々に大変お世話になった。

またこの報告集の作成には日本学術振興会科学研究費(基盤 A 課題番号 15204001 代表 桂 利行)から補助を受けている。

この講演記録を書いてくださった講演者の方々、開催するためにご努力をいただいたプログラム責任者、および会場関係者の方々、さらにこの報告集作成を支援してくださった方に、感謝いたします。なお数年前から代数学シンポジウム報告集は代数学分科会のホームページからも見ることができることを申し添えます。

東京、2007年1月

筱田健一